

サプライチェーン排出量の削減推進方策検討会
2017年12月14日

花王の環境への取り組み

1. 花王と環境との関係
2. 花王 環境宣言
3. サプライヤー様との取組

4つの事業分野と主な製品

KaO

暮らしに身近な製品から工業用製品まで、
幅広い製品をお届けしています。



ビューティケア事業の主な製品



ヒューマンヘルスケア事業の主な製品

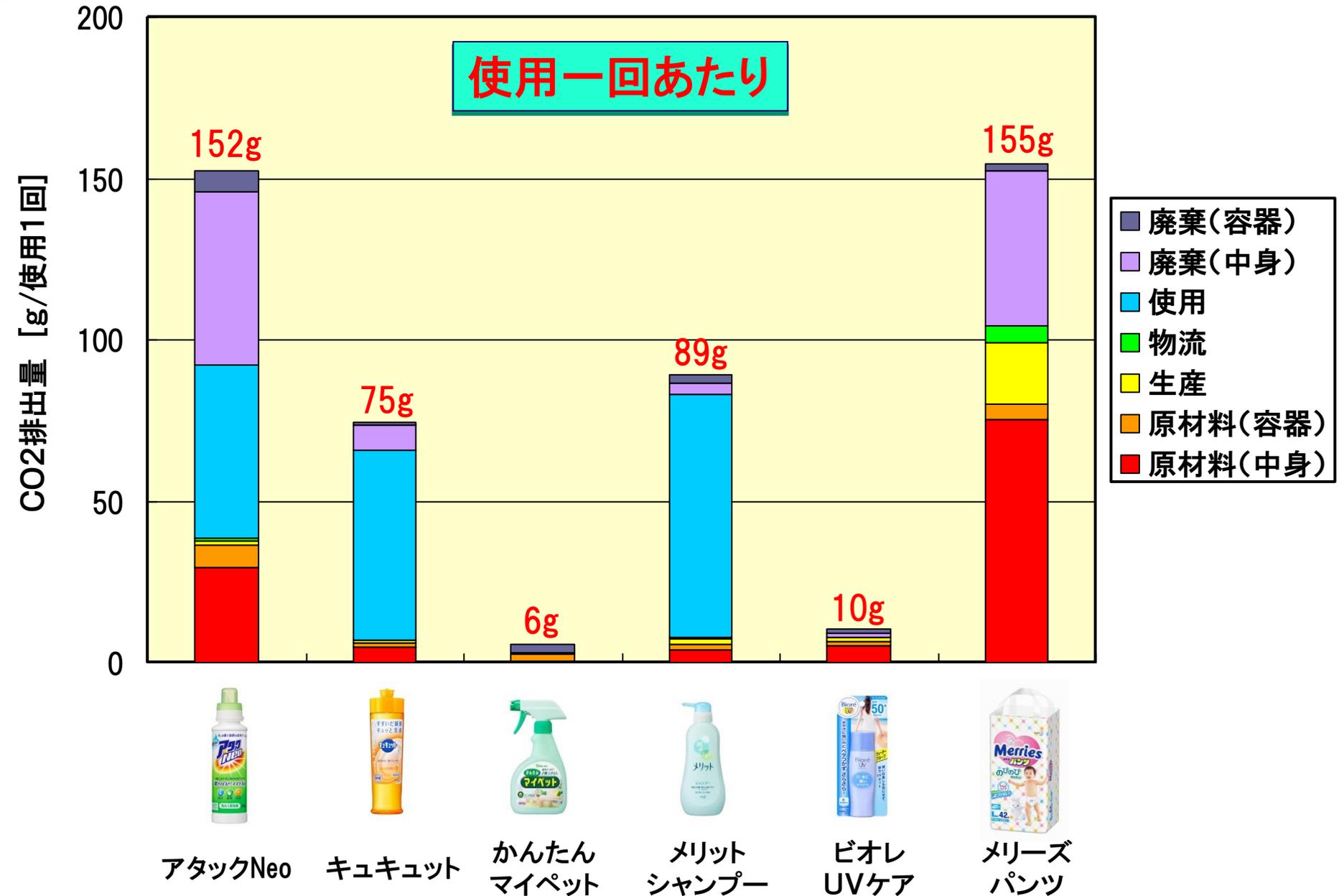


ファブリック & ホームケア事業の主な製品



ケミカル事業の主な製品

代表製品のライフサイクルCO₂排出量 と調和する る豊かな毎日をめざして Kao



花王の製品は、多くのご家庭で、毎日のように使っていただく製品です。
モノづくりのプロセスだけでなく、お客さまにあっていただく中でも花王独自の技術を活かし、
環境に負荷を与えないような製品をつくっていきます。
そして、原材料調達や生産、物流、販売、使用、廃棄など、製品がかかわるサイクルの中で
消費者をはじめさまざまなステークホルダーの方と一っしょに実行できる、
よりecoな方法を提案してまいります。

自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして



<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/statement/>

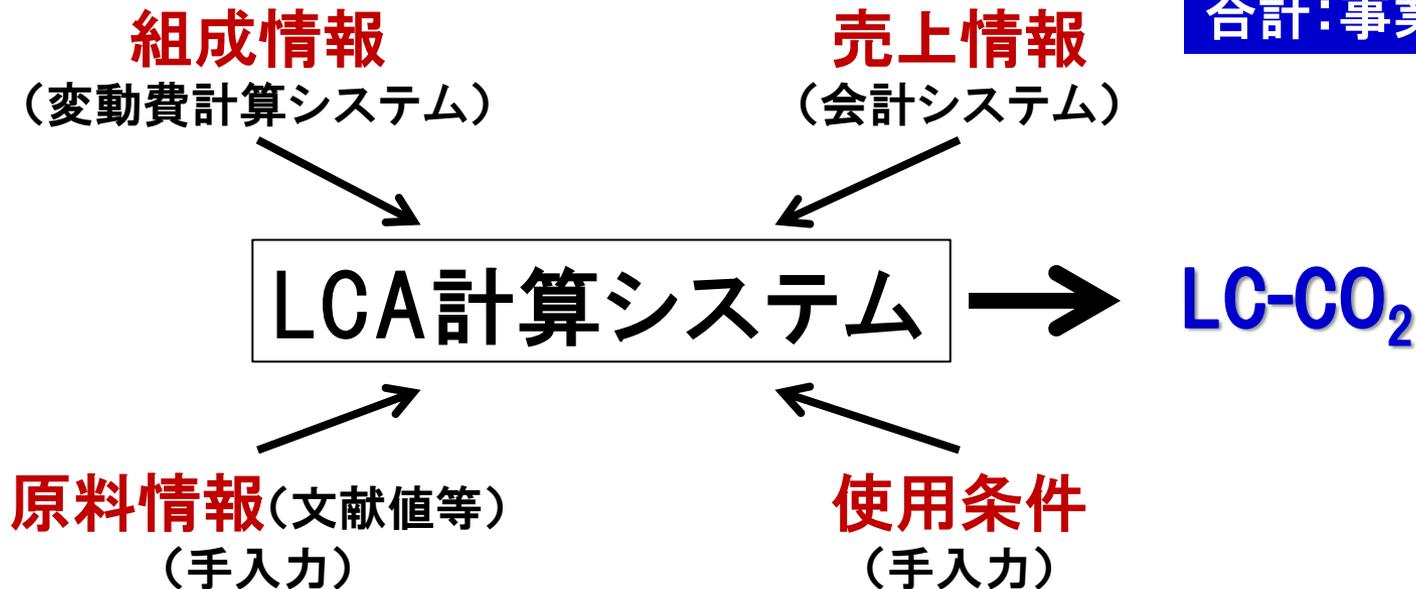
<http://www.kao.com/jp/environment/>

花王の商品は、ライフサイクル全体でどれだけのCO₂を発生しているか？

製品A (製造時・廃棄時のCO₂ + 使用時のCO₂) × 使用回数(販売量) = CO₂発生量/年

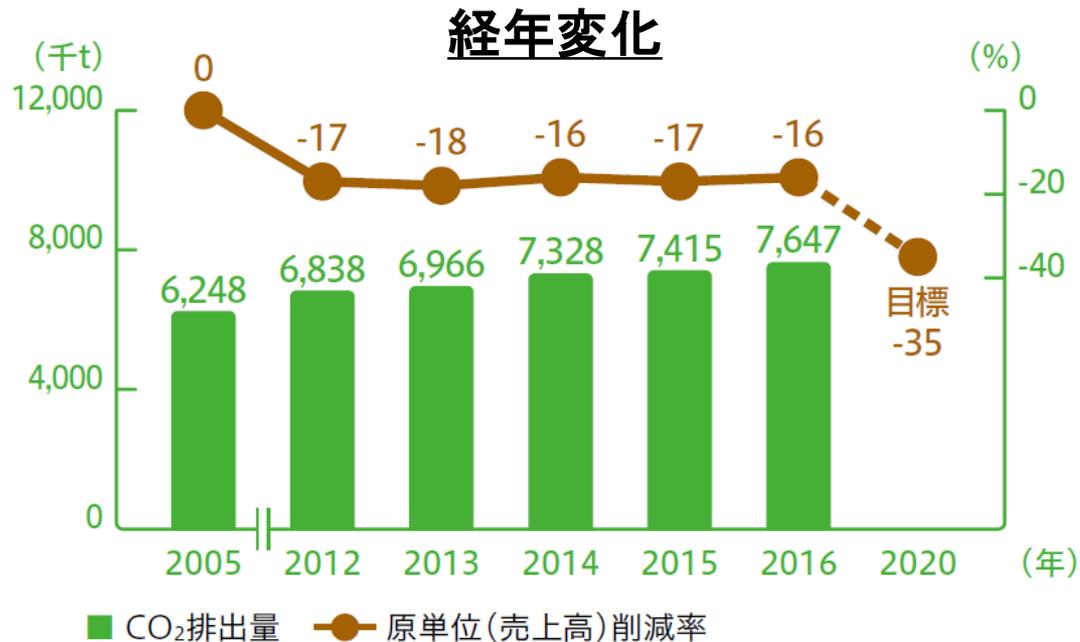
製品B (製造時・廃棄時のCO₂ + 使用時のCO₂) × 使用回数(販売量) = CO₂発生量/年

.....
.....
.....



合計:事業全体のLC-CO₂

LCA計算システムによる事業全体のLC-CO2把握



新しいお洗濯の提案



09年8月 発売

水を極限まで減らしても
商品品質を維持

濃縮

洗浄力

洗浄成分が素早く作用し、
汚れを水に溶かし込む

「すすぎ1回」を実現

「すすぎ1回」のお洗濯で
節水、節電、時短を実現

節水力

世界に広がるアタック

自然と調和する
こころ豊かな毎日をめざして

KaO



洁霸(ジェツバ)瞬清
【中国】



一匙靈極速淨EX
【台湾】



Bio Z Attack
【オーストラリア】



潔霸(ギツパ)
Quick Clean
【香港】



Attack Quick Clean
【シンガポール】

環境に配慮した製品例

自然と調和する
こころ豊かな毎日をめざして

KaO

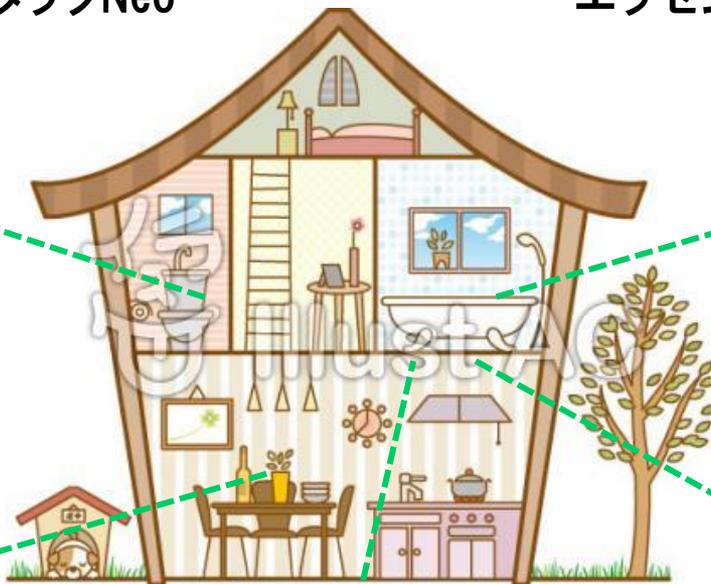


少ない水で濯げる！
ウルトラアタックNeo

ドライヤーが短時間！
エッセンシャル



素早い泡切れ！
キュキュット



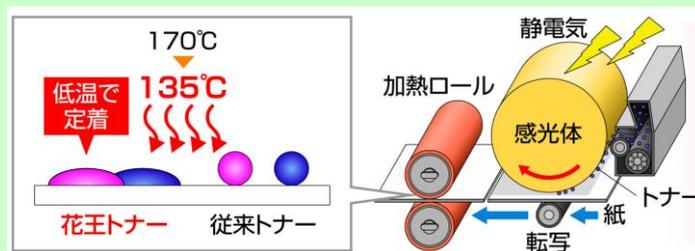
サッと濯げる！
ビオレU



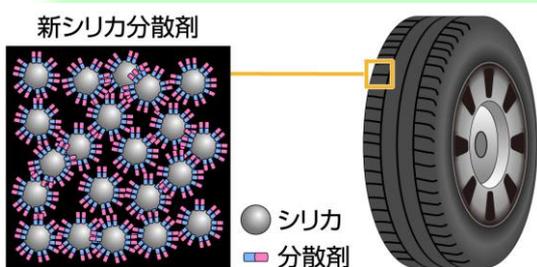
素早い泡切れ！
バスマジックリン

ケミカル製品の製造段階やケミカル製品の使用時の環境負荷を削減します

低温定着トナーバインダー 電力消費削減



シリカ分散性向上剤 低燃費タイヤ



高機能特殊増粘剤 汚濁なく水中施工



エコケミカル製品 開発事例

鋼板用洗浄剤とリンス剤 低温洗浄・リンス

脱墨剤 古紙再生

湯道管 鋳物の製造時の廃棄物削減

エネルギー・水使用効率の向上

省エネルギー設備の導入

(2016年: 冷凍機、コンプレッサ等)

蒸気の緻密な制御、有効利用

汎用蛍光灯、水銀灯のLED化

プロセス水の再利用

低環境負荷エネルギーの利用

天然ガスの積極的導入

再生可能エネルギー電力の導入

(2016年 ドイツ・英国工場100%導入)

太陽光発電導入

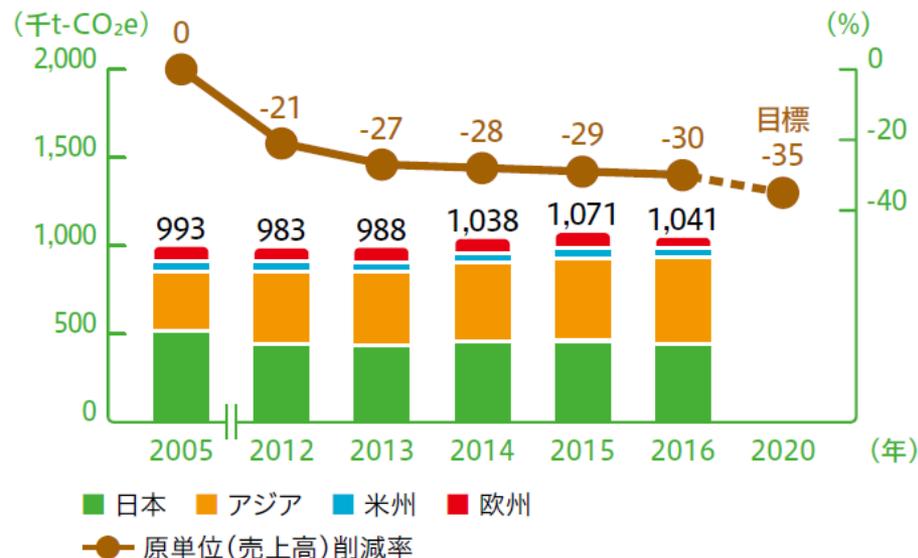
草の根(省エネ・環境保全)活動

コスト低減活動と連動した省エネ活動

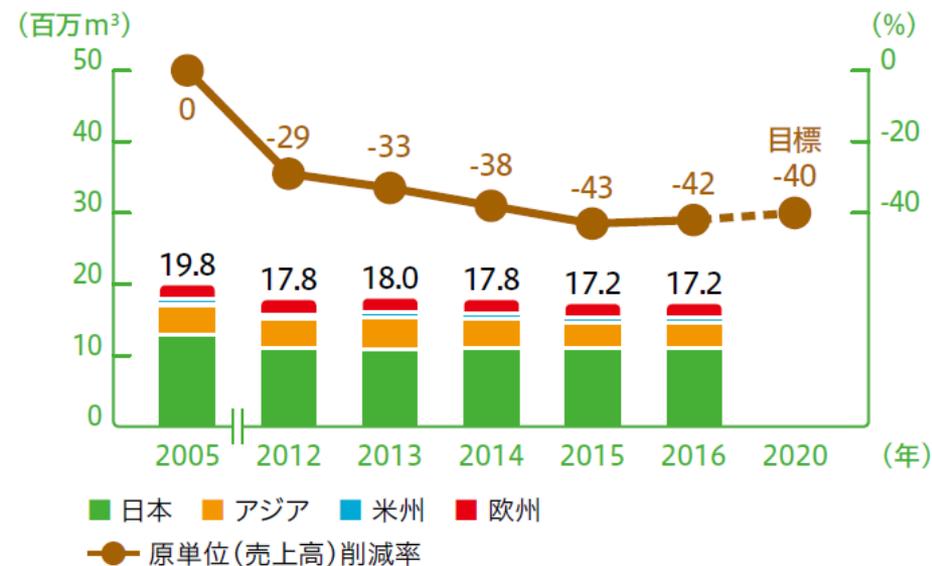
生物多様性を考慮した

事業場・地域保全活動

温室効果ガス排出量の推移★(全拠点)



水使用量(取水量)の推移★(全拠点)



●生産工場最適化と効率的なロジスティクス

○モーダルシフト



川崎、愛媛、和歌山
工場が認定工場に

○積載率の改善

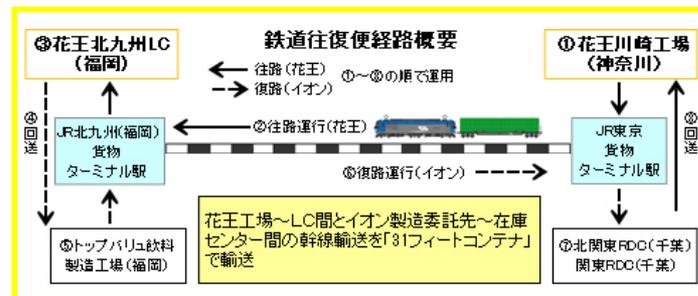


パレットレス輸送

○安全・確実に、環境に配慮した運転

●社外との連携

イオングローバルSCM（株）と 鉄道コンテナの共同運行



従来のトラック輸送と比較し往復の配送で
約2.8トン程度CO₂排出量の削減

●エコなロジスティクス拠点

建築物温暖化対策計画書制度
(CASBEEかながわ) J Aランク取得



厚木ロジスティクスセンター

雨水の再利用、
LED照明、
太陽光発電などで
年間100トン以上の
CO₂削減を目標

流通さまと



“节水丸”

自治体さまと



○各部門での活動活性化

○使用時(生活者、顧客)の環境配慮製品が、充実してきた
衣料用洗剤、食器用洗剤、お風呂用洗剤
産業用製品
インバス製品は難しい(お湯、十分なすすぎ)

調達基本方針

花王は法を遵守し高い倫理観をもって、公正・公平な購買活動をします。持続可能な社会の実現への貢献をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などに配慮し、企業としての社会的責任を果たします。

3. 社会的責任

(2) お取引先と必要な情報を交換しあい、取引の条件や相互の行動などについて真摯に評価しあい、相互のレベルアップに努めます。

調達先ガイドライン

花王はお取引先を“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達基本方針」に基づき、「調達先ガイドライン」に則りお取引先を決定します。

花王は、「社会の持続可能性の実現への貢献」をめざし、調達においても“国連グローバルコンパクトの10原則”を尊重してお取引先に「社会的責任の配慮項目」と「環境配慮項目」への配慮を求め、遵守するお取引先から優先して調達します。

また、すべてのお取引先にこのガイドラインを周知し、遵守状況の把握に努め、違反がある場合には監査を含めた改善指導やお取引の中止など適切な対応をします。

花王は、同様の取り組みをお取引先にも求め、サプライチェーン全体で“よきモノづくり”を追求します。

CDP サプライチェーンプログラム

CDPとは、

機関投資家が連携して、世界の主要企業の気候変動に対する取り組みや温室効果ガス排出状況の報告を促す取り組み。

2000年に開始され、現在は気候変動、水、森林の3つの取り組みがある。

サプライチェーンプログラムは、

CDPが企業と連携し、企業が自社のサプライヤーに気候変動、水、森林に関する情報開示を求めることで、サプライチェーン全体での取り組みを進めるプログラム。

■ 花王独自手法でスコアリング、結果報告

レベル	評価対象
—	非回答
★	回答実施
★★	排出量把握 (scope1,2)
★★★	目標設定・体制構築・管理実施
★★★★	GHG削減活動実施 サプライヤーGHG把握 等
★★★★★	再生可能エネルギー導入 SBT設定 等
★★★★★+	★★★★★かつCDP A評価

〇〇〇株式会社 御中
ご回答社名:△△△

2017年2月



CDPサプライチェーンプログラムご回答結果に対するご報告

花王株式会社
購買部門, サステナビリティ推進部

拝啓 貴社ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、CDPサプライチェーンプログラム(気候変動)にご回答いただきまして、大変ありがとうございます。ご回答いただきました内容を基に、貴社の活動水準を評価させていただきましたので、下記のとおりご報告申し上げます。貴社のご活動にご参考いただければ幸いです。

なお、今回ご回答いただけなかったお取引先様につきましては、ご回答いただけなかった理由を、下記連絡先まで、お知らせいただければ幸いです。

敬具

記

1. 活動水準評価結果

活動水準		★★★★★		
ステップ	適合	実施	評価対象	CDP質問 No.
1	✓	✓	1) 一部でも回答	
2	✓	✓	1) CO2排出量 把握 Scope 1,2	CC8.2, CC8.3a
		✓	2) CO2排出量変化量 把握	CC12.1
3	✓	✓	1) 最高責任者/組織 整備	CC1.1
		✓	2) 定期リスク等モニタリング報告	CC2.1a
		✓	3) 目標設定	CC3.1a, CC3.1b
4	✓	✓	1) CO ₂ 削減プロジェクト(開始・実施中) 内容記入	CC3.3a
		✓	かつ CO ₂ 削減プロジェクト(開始・実施中) CO ₂ 排出量	CC3.3a
		✓	2) Scope 3 (調達) 算定	CC14.1
5	✓	✓	3) 花王分 製品CO ₂ 排出量 算定	SM3.2a, SM3.2a
		✓	1) SBT設定	CC3.1a, CC3.1b
		✓	2) 低炭素エネルギー	CC3.3b
		✓	3) 再生可能エネルギー導入	CC11.5
6	✓	✓	4) 再生可能エネルギー目標設定	CC3.1d
		✓	1) CDP CCでAリスト	

※判定フロー

ステップ1 ステップ2 ステップ3 ステップ4 ステップ5 ステップ6

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/raw-materials-guidelines/>

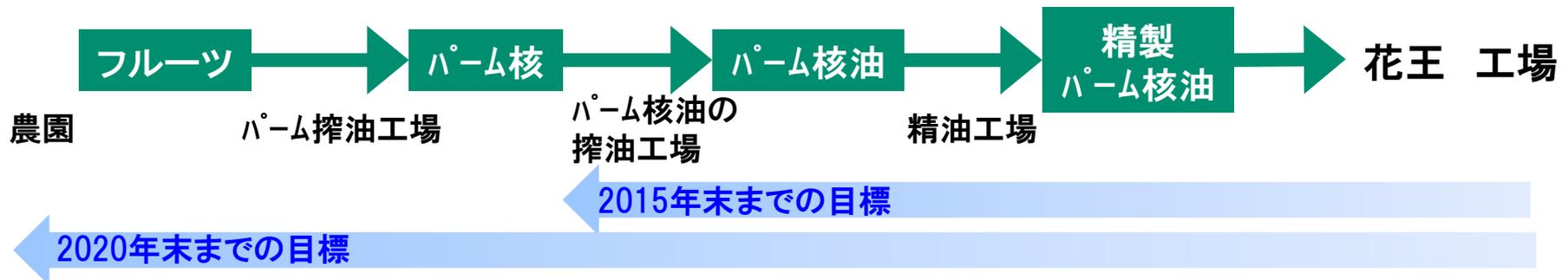
花王は、資源制約や地球温暖化などの環境問題、生物多様性の劣化、人権課題など、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組めます。

事業が自然資本に依存していることを認識し、**パーム油や紙等の調達に関しては、原産地の森林破壊ゼロを支持します。**また、中長期的には、原材料の究極的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、**グローバル化により顕在化してきた倫理的な課題にも配慮して、持続可能な調達を推進します。**

花王は、パーム油の調達において、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロを支持します。

目標(抜粋)

- 2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、ミルまで原産地追跡可能なもののみを購入することをめざします。
- 2020年までに、原産地の森林破壊ゼロを十分に確認します。
- 2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入します。



調達先ガイドラインの改訂とSedexの活用

2017年11月06日

サステナビリティピックアップ

花王「調達先ガイドライン」を改訂し、Sedexの活用をさらに推進

花王は、取引先にも花王と同様の人権・環境への配慮を求めするため、2017年6月、「調達先ガイドライン」^{*1}を改訂いたしました。また、取引先のガイドライン遵守状況の確認にSedex^{*2}を活用してまいります。

花王は、調達における環境・社会・倫理面の課題に配慮した「持続可能で責任ある調達」に取り組んでおり、調達基本方針^{*3}を定め、推進しています。

「調達先ガイドライン」は、調達基本方針のもと、花王にさまざまな資材や役務を供給していただく取引先(以下、取引先)を選定する際に、グループ各社が社会面と環境面で考慮すべき事項を定めたもので、2013年にグローバルコンパクトの10原則^{*4}などに基づき設けました。2015年に花王人権方針^{*5}を公表、また「英国現代奴隷法2015^{*6}」対象企業としてサプライチェーン上での労働人権侵害の有無を確認する義務を負うことになり、2017年6月、取引先にも花王と同様の人権・環境への配慮を求め、「調達先ガイドライン」の改訂を行ないました。今回の改訂では、取引先の「調達先ガイドライン」遵守状況の確認を新たに定めており、この確認にSedexを活用してまいります。

花王は、これまで、独自の自己評価アンケート方式による取引先のモニタリングを実施してきましたが、さらなる責任ある調達をめざし、2014年に日本初のAB会員としてSedexに加盟。取引先にも参画を促し、現在までにグローバルで約900社の取引先と一緒に活用しています。また、英国現代奴隷法2015の求めるサプライチェーンの評価にもSedexのしくみを活用しています。

花王は、今後とも持続可能で責任ある調達を推進し、社会のサステナビリティに貢献してまいります。

英国現代奴隷法2015

【英国現代奴隷法】（2015.10.29施行）

グローバル売上高が3,600万ポンド（約50億円）以上で、英国で事業を行なう会社は、奴隷労働や人身売買に関する年次ステートメントを公開する義務がある。

応じない場合、内務大臣の要請による裁判所の強制執行命令に反すると上限無制限の罰金の可能性、また、義務に応じない企業は市民社会から非難されるリスクを負う。

【花王ステートメント（予定）】

期日； 花王は毎年6月（初回 2017年6月）

対象； 花王グループ全体（取締役会の承認）

媒体； 花王Webサイト

内容； 自社の事業活動とサプライチェーンにおいて、奴隷労働と人身売買がないことの担保のため実施した全ての取り組み。または実施していない旨の声明。

声明ガイドライン

- 奴隷労働や人身売買に対する方針
- デューデリジエンスプロセス
- リスク評価と管理の手順
- 指標の有効性（奴隷労働と人身売買のないこと）
- 従業員の教育

購買基本契約
Sedexによる評価

人権リスクの影響は、自社グループだけでなく、取引先を含む**バリューチェーン全体**や地域コミュニティに対しても及ぶため、実施体制を明確にしたマネジメントが必要



S e d e x : Supplier Ethical Data Exchange

本部：ロンドン

グローバルサプライチェーンでの倫理的で責任あるビジネス慣行の促進を目的とした**サプライヤー情報の共有データベース**。

確認できる情報

1. 労働基準
2. 健康と安全
3. 環境
4. ビジネス慣行

サプライヤー： (38,000社)

- 数多くの企業から個別に要請される監査等に応じる労力が軽減できる
- 監査業務の効率化
- サプライチェーンにおけるリスクの特定
- サプライヤーに、倫理面でリスクがないか、事前にスクリーニングができる